

4 総合戦略の3つの体系と9つの柱

I 若者が働きやすい、働きがいのあるしごとを創る

若者の多彩な『しごと』

1 三木の特性を活かした既存産業の振興

金物産業や農業、商業などを振興し、既存産業の振興を図る。

施策

- ① 金物産業等のブランド化・高付加価値化による地場産業の振興
- ② 山田錦の品質向上と6次産業化による農業振興
- ③ 市内の観光・商業施設の事業展開や情報発信により既存産業を活性化



世界に誇る技術力をもつ金物産業の多分野進出等を支援することにより、既存産業の振興を図る。

2 高速道路網を活用した雇用の創出

高速道路網の要衝である立地を活かして雇用の創出を図る。



施策

- ① 高
- ② 若
- ③ 市

○柱及び施策の内容を見直し中

【方針変更の内容】

- ・三木 SA 北側エリア開発プロジェクトは断念するという方向性で検討。
- ・働く場の創出は、企業誘致の推進など、県市協調のもと検討。
- ・賑わいの創出は、(仮称)三木スマートインターの活用策も含め検討。

3 ネスタリゾート神戸※を核としたまちの活性化

ネスタリゾート神戸を交流の核として、まちの活性化を進め雇用を創出し、市民の健康づくりを図る。

※平成28(2016)年7月に、グリーンピア三木が複合リゾート施設「ネスタリゾート神戸」としてリニューアルオープン。



施策

- ① リニューアルを機に新たに展開する事業による雇用の創出とまちの活性化
- ② スポーツや温泉などで高齢者をはじめとする市民の健康づくり

宿泊施設のリニューアルに加え、イルミネーションゾーンやプール、フィールドアスレチックやスポーツ施設の充実などによる新たな集客力を活用し、雇用の創出とまちの活性化

Ⅱ 若者が魅力を感じるまち・住まいを創る

魅力ある『まち・住まい』

4 緑が丘をモデルとしたまちの再生

神戸市に一番近いという地の利を活かしオールドニュータウンの再生モデルとして、まず緑が丘のまちの再生を進め、他地域に広めていく。

施策

○施策の内容を見直し中

①

【方針変更の内容】

②

・緑が丘駅前の集合住宅の整備計画はニーズや事業採算性を含めた再検討。

③

・空き家を活用した移住促進策の検討。

・駅前用地の有効活用策の検討。

※1「生涯活躍のまち」構想…高齢者が都市から地方に移り住み、健康的な生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくりをめざすもの。



「生涯活躍のまち」構想を推進し、全ての世代が共生していく新たな生活支援サービス拠点の整備やライフスタイルを構築

5 「住み心地」の向上による定住の促進

三木の「住み心地」のよさを高め、まちの魅力を情報発信し、定住人口を増加する。

施策

① 郊外地としての魅力を発信

② 若者向けのイベントなどで若者がくらしを楽しむ場を創出

③ 定住につながる三木の魅力を「住みよさ」として情報発信



多世代が交流できる拠点をつくとともに、自然豊かで、子育てしやすいまちを発信

6 ゴルフを核としたまちの活性化

ゴルフ場数が西日本一を誇るまちとして、ゴルフ産業を振興し、まちを活性化する。

施策

① ゴルフ振興によるさらなるゴルフ人口の拡大

② ゴルフ場を活用したまちの活性化

③ ゴルフを核としたスポーツツーリズムによるまちおこし



乗馬やテニスなど家族で楽しむスポーツツーリズムや観光ツーリズムの推進によるゴルフ人口の増加

Ⅲ 人口減少・高齢社会に対応して生活の質を高める

7 教育や子育て支援の充実による次世代の育成

高い『生活の質』

生きる力を育む教育の確立や「三木版ネウボラ」(※2)の充実により若い世代を受け入れ、次世代を育成する。

施策

- ① 三木独自の質の高い教育
- ② 子育てしている家族の生活をサポート
- ③ 未婚・晩婚化の解消

※2 「三木版ネウボラ」…フィンランド語で「アドバイスの場所」を意味する。三木版においては、産前・産後・就学前、中学校卒業まで切れ目ない子育て支援を行う制度。



地域全体で子育て世帯をサポートし、安心できる子育て環境の創出

8 コンパクトシティ化や環境に配慮したエコタウン化の推進

人口減少社会に対応し、まちの経営のコンパクト化や「小さな拠点」(※3)同士の新たなネットワークの構築、加えてエコタウン化を推進する。

施策

- ① コンパクトシティ化の推進
- ② 小さな拠点形成とネットワーク化
- ③ 環境に配慮したエコタウン化の推進

※3 「小さな拠点」…人口が減少しても地域で住み続けられるように買い物や福祉などの市民生活を支える仕組。



市民の生活水準を維持するとともに、市民負担を抑制するためコンパクト化を推進

9 バス・鉄道等、公共交通の活性化

公共交通を生活手段として守り抜き、市民生活の利便性を増進するため活性化する。

施策

- ① バス交通の活性化
- ② 神戸電鉄粟生線を活性化し、維持・存続



I Cデータを活用して継続的にさらなる利便性を図り、市民の生活に密着した公共交通の活性化